



平成30年5月29日

四国地方整備局

## 瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会 平成30年度総会の開催 ～瀬戸内海の魅力を磨くには～

平成30年6月1日（金）愛媛県宇和島市において「瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会（通称：海ネット）会長：尾花 正啓（和歌山市長）」（別紙1参照）は、平成30年度総会及び第12回瀬戸内海首長サミットを開催します。

瀬戸内海では独自の魅力、特色を活かした独自のクルーズ振興を図り、瀬戸内海がブランド力の高いクルーズの海となることを目指した取組みを進めており、今回、ホーランド・アメリカ・グループ アジア・ポート・オペレーション・ディレクター 市川 紗恵 氏を招いてクルーズに関連した講演をしていただきます。

第12回瀬戸内海首長サミットでは、「瀬戸内海の魅力を磨くには」をテーマに参加首長が議論を行います。

○日 時 平成30年6月1日（金） 15:00 ～ 18:40

○場 所 サブライムホール宇和島（ニュー兵頭）  
（宇和島市丸之内3-6-20 TEL 0895-23-8888）

### ○プログラム

【開 会】15:00～15:20

・開会挨拶 ・来賓挨拶 ・歓迎挨拶

【第1部】15:20～16:30

・平成30年度総会 平成30年度事業計画（案）・予算（案）等  
・講演「世界のクルーズ動向と日本に求められる上質な観光ツアー」

講師：ホーランド・アメリカ・グループ

アジア・ポート・オペレーション・ディレクター 市川 紗恵 氏

【第2部】16:40～18:40

・第12回瀬戸内海首長サミット

テーマ「瀬戸内海の魅力を磨くには」（別紙2参照）

当日、会場には報道者席を用意しておりますので、受付にお申し出下さい。

### 【問い合わせ先】

国土交通省 四国地方整備局 港湾空港部

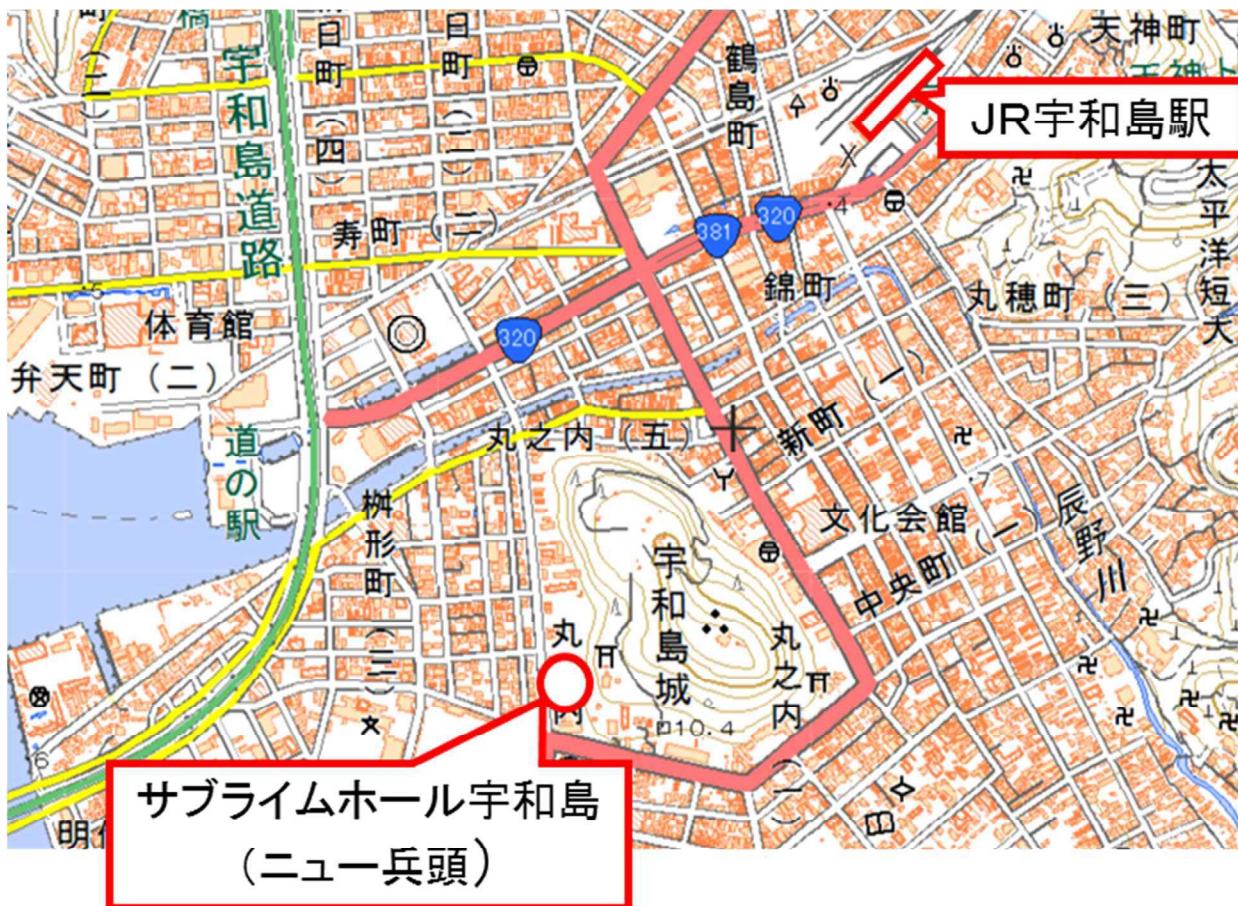
クルーズ振興・港湾物流企画室長 野本 啓介

課長補佐 前川 恭二

電話 087-811-8360（直通）

## ○会場案内図

### ■ 位置図



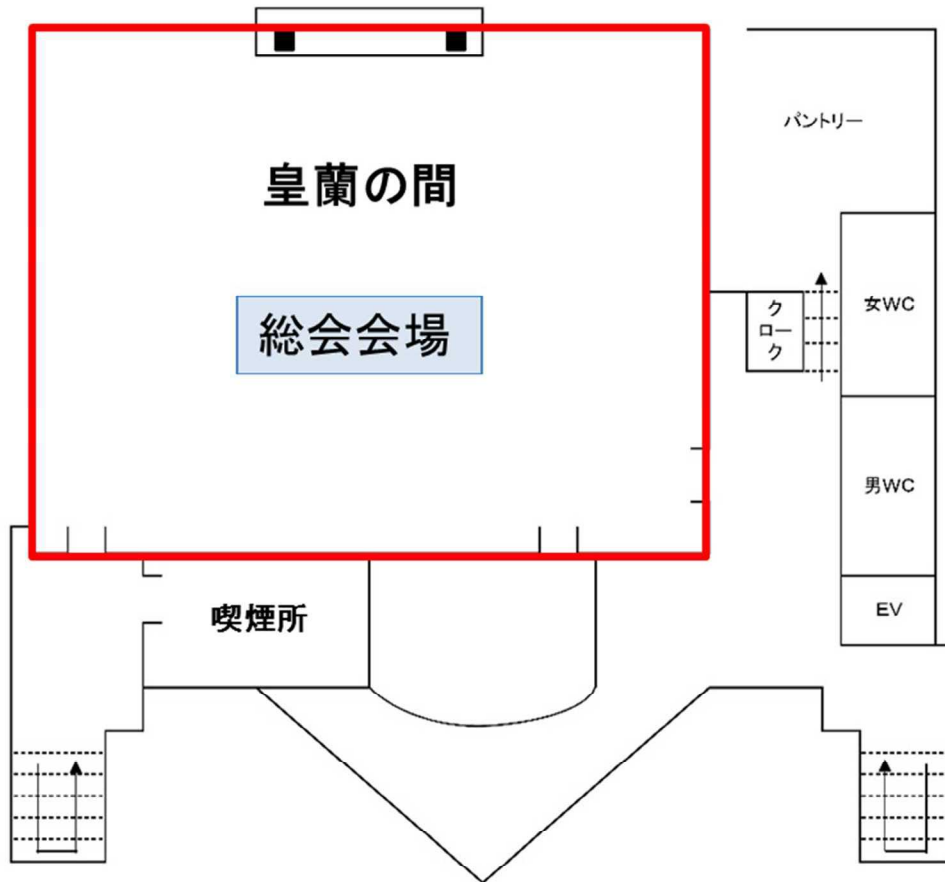
### ■ 会場までのアクセス

#### 【JRをご利用の場合】

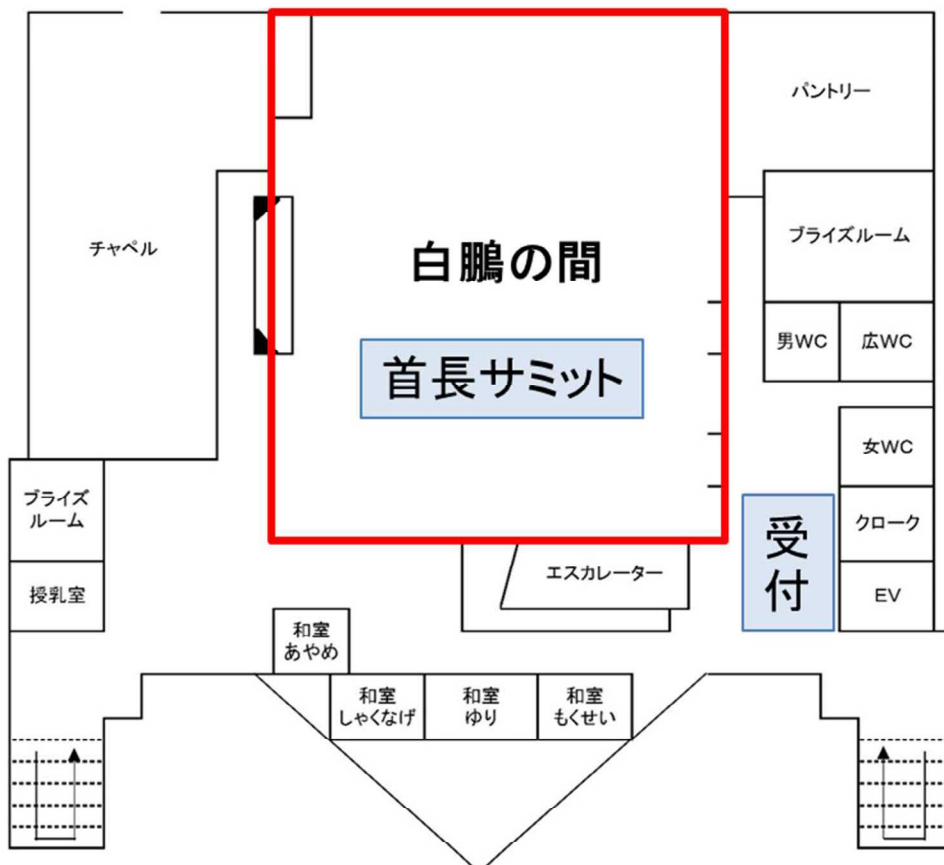
予讃線「宇和島駅」より車で5分

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 総会、首長サミット会場

3F



2F



# 瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会（通称：海ネット）

## 海ネットとは

「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」（通称：海ネット）は平成3年5月に設立され、瀬戸内海沿岸市町村相互の連携により、瀬戸内海の多様な資源を活かした人の流れを創り出し、防災ネットワーク機能の強化を視野に入れた瀬戸内・海の路の利用振興を図りつつアミニティー豊かな地域として沿岸地域全体の発展に資することを目的としている。

別紙1

## 海ネットの活動指針

- 高速海上交通時代に対応した今日的意義のある「海の路の構築」、並びに地震津波に対応した**防災ネットワークの整備**
- 瀬戸内海の景観、歴史、文化、食、街並み等インバウンド観光時代における**瀬戸内の魅力発信**
- 失われた干潟、藻場の再生や災害、荒廃によるはげ山の修復等の**瀬戸内海の環境創造**

## 歴代会長

平成3年～6年：姫路市長（戸谷 松司）  
平成7年～10年：坂出市長（松浦 稔明）  
平成11年～14年：小松島市長（西川 政善）  
平成15年～18年：玉野市長（山根 敬則→黒田 晋）  
平成19年～20年：下関市長（江島 潔→中尾 友昭）  
平成21年～26年：大竹市長（入山 欣郎）※敬称略  
平成27年～：和歌山市市長（尾花 正啓）

## 協議会の実施機関となる「実行委員会」

### 環境事業委員会

「受け継ごう きれいで豊かな瀬戸の海」を合い言葉とした「リフレッシュ瀬戸内」や、ゴミの組成調査「海の健康診断」等を実施し、環境美化活動へ活用するため、関連する調査結果を内外へアピールする。

### 魅力検討委員会

「瀬戸内・海の路利用振興事業」、「海ネットサポーター提案事業」により会員支援を実施。また、“瀬戸内”をキーワードとした取り組みについて積極的に連携を図り、瀬戸内の魅力を発信する。

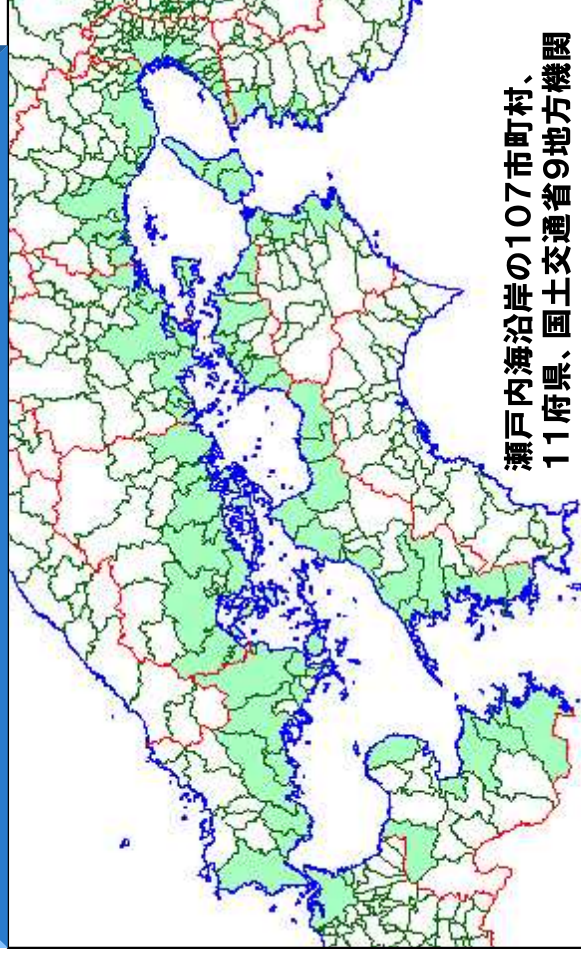
### 情報発信委員会

海ネット活動の成果などの情報発信を行うとともに、他の実行委員会と連携することで、より多くの人々に瀬戸内の魅力を認識していただき、興味をもってもらえるような情報を発信していく。

### 防災委員会

「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」における締結拡大を図るとともに、協定運営協議会との情報交換等により、本協定の実効性の確保に向けた検討を行っていく。

海ネット会員(127会員：平成30年6月1日現在)



瀬戸内海沿岸の107市町村、11府県、国土交通省9地方機関



海ネットのシンボルマーク

## 【第 2 部】 第 12 回 瀬戸内海首長サミット

日 時 平成 30 年 6 月 1 日（金） 16:40～18:40

テーマ 「瀬戸内海の魅力を磨くには」

<内 容>

「明日の日本を支える観光ビジョン」（2016 年 3 月 30 日）に掲げられた目標である「訪日クルーズ旅客を 2020 年に 500 万人」という新たな目標に対し、昨年の訪日クルーズ旅客数は前年比 27.2%増の 253.3 万人、クルーズ船の寄港回数は前年比 37.1%増の 2,765 回となり、いずれも過去最高となりました。

また、当観光ビジョンのなかでは、瀬戸内海など新たな国内クルーズ周遊ルートの開拓、ラグジュアリークルーズ船の就航が述べられています。

瀬戸内海は、大小さまざまな島と静穏な海が織りなす美しい景観、歴史、文化など多様な地域資源があり、非常に魅力的な地域です。このような瀬戸内の魅力ある地域資源を活かしたクルーズ文化を確立していくことにより、交流人口増加等による地域経済の発展、またクルーズ船が寄港することにより国内外へ地域の魅力が発信され、地域の魅力の再発見にもつながると考えます。一方、訪日外国人旅行者の意向調査によれば、日本の観光地のイメージとしての「島々の風景」は、一部の国では認知度が高いものの、多くの国では認知度が低い状況です。これは、瀬戸内海の情報発信の不足、認知度を高めていくことの必要性が示唆されています。

昨年の第 11 回首長サミットでは、瀬戸内クルーズ振興とその魅力を発信するためのブランド化を目指すには、どのような取組を進めていけばよいか活発な議論を交わしました。第 12 回首長サミットでは、「瀬戸内海の魅力を磨くには」と題して、瀬戸内の豊富な地域資源のブランド化のため、訪日外国人のまなざし（目線）で新たな瀬戸内の観光資源の発掘にはどのようなことが必要か、瀬戸内各地域のそこにしかない観光資源となり得るモノ、コトの磨き上げには何に留意することが必要か、などについて活発な議論を交わしていただきます。

<参考>

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会  
平成30年度総会参加予定首長（21名）

(敬称略)

大阪府	高石市	阪口 <sup>さかぐち</sup>	伸六 <sup>しんろく</sup>
	岬町	田代 <sup>たしろ</sup>	堯 <sup>たかし</sup>
兵庫県	南あわじ市	守本 <sup>もりもと</sup>	憲弘 <sup>かずひろ</sup>
和歌山県	湯浅町	上山 <sup>うえやま</sup>	章善 <sup>あきよし</sup>
岡山県	玉野市	黒田 <sup>くろだ</sup>	晋 <sup>すすむ</sup>
	瀬戸内市	武久 <sup>たけひさ</sup>	顕也 <sup>あきなり</sup>
広島県	竹原市	今榮 <sup>いまえ</sup>	敏彦 <sup>としひこ</sup>
	坂町	吉田 <sup>よしだ</sup>	隆行 <sup>たかゆき</sup>
山口県	宇部市	久保田 <sup>くぼた</sup>	后子 <sup>きみこ</sup>
徳島県	松茂町	吉田 <sup>よしだ</sup>	直人 <sup>なおと</sup>
香川県	坂出市	綾 <sup>あや</sup>	宏 <sup>ひろし</sup>
愛媛県	四国中央市	篠原 <sup>しのはら</sup>	実 <sup>みのる</sup>
	西条市	玉井 <sup>たまい</sup>	敏久 <sup>としひさ</sup>
	今治市	菅 <sup>かん</sup>	良二 <sup>りょうじ</sup>
	上島町	宮脇 <sup>みやわき</sup>	馨 <sup>かおる</sup>
	伊予市	武智 <sup>たけち</sup>	邦典 <sup>くにのり</sup>
	八幡浜市	大城 <sup>おおしろ</sup>	一郎 <sup>いちろう</sup>
	西予市	管家 <sup>かんげ</sup>	一夫 <sup>かずお</sup>
	宇和島市	岡原 <sup>おかほら</sup>	文彰 <sup>ふみあき</sup>
	愛南町	清水 <sup>しみず</sup>	雅文 <sup>まさふみ</sup>
福岡県	荇田町	遠田 <sup>とおだ</sup>	孝一 <sup>こういち</sup>